

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

滿鐵調查報告

第四輯

10

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社



滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第四輯

10

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
廣西師範大學出版社

· 桂林 ·



昭和四年十一月十日印刷
昭和四年十一月十五日發行

南滿洲鐵道株式會社編

印刷人

大連市大山通六十三番地
太田信三

印刷所

大連市大山通六十三番地
小林又七支店

經濟資料第十四卷第三號 國民黨產業政策

滿鐵東亞經濟調查局 一九二七年三月 1

吉林省產業現狀

滿鐵庶務部調查課 一九二七年五月 127

滿蒙產業

一九二九年十一月 409



經濟資料第十四卷第三號

國民黨產業政策

昭和二年三月一日發行

經濟資料

第拾四卷 第參號

國民黨の産業政策

南滿洲鐵道株式會社

東亞經濟調查局發行

凡 例

一、本研究は主として國民黨の産業政策に就いて説いたもので、支那全般の産業發展の傾向に就いては説き及んでないけれども支那の産業狀態の概要は、國民政府の政策を説く際になるだけ併せ説明することとした。

二、國民黨の産業政策はまだ實行に至つて居ないのが多いため、實例を擧げて適確に示すことは出来ないから、彼等の從來からの主義主張と將來の方針、並にその中に於て實行の緒についてゐる部分の叙述をなすに止め、之に筆者自ら國民黨幹部の人々と接觸して得た感想を合せ記して、能ふ限り將來に於て國民黨が採らんとする道程を豫察する資料を供給することとした。

三、本研究に於ては、専ら經濟方面の記述のみに止め、政治方面に論及することは努めて避けた積りであるが、國民黨の方針そのものが政治と經濟との合一を意圖するものである以上、全然兩者を分離することは不可能であるから、必要に應じて政治方面にも觸れて説明しておくことにした。

筆 者

國民黨の産業政策

目次

第一章	概説	(一)
第二章	政策の基調	(三)
第三章	農業政策	(二〇)
第一節	農村組織の改良	(二二)
第二節	小農小作保護	(二九)
第三節	農村經濟の改良	(三三)
第四節	農業政策概評	(三九)
第四章	工業政策	(四一)

第一節	工業發展策……………	(四一)
第二節	勞働者保護……………	(五五)
第五章	商業政策……………	(七〇)
第一節	商業の根本對策……………	(七一)
第二節	國民黨の華僑……………	(七六)
第三節	國民黨の買辦……………	(七九)
第四節	國民黨の商會……………	(八一)
第五節	國民黨の商業保護……………	(八六)
第六章	國家の産業管理……………	(九〇)
第一節	地權平均……………	(九一)
第二節	資本節制……………	(一〇〇)
第七章	結 論……………	(一一七)

國民黨の産業政策

第一章 概説

支那の國民革命は今や燎原の火の如き勢で南中支那から北支那までも壓倒せんとして居る。支那が政治的にどう變らうと、それは日本に取つて大した問題ではないが、その採用する産業經濟政策は、我が對支事業に大影響を與ふるだけでなく、日本國內の産業にも根本的動搖を及ぼすものとして吾人はこれを重視しなければならぬ。

又國民革命そのものからいつても、革命に於ける破壊は固より極めて容易であり、建設方面でも、政治建設は比較的手輕く出来る。然し一番困難なのは産業建設である。ロシヤ革命もこの方面では殆んど失敗の連續である。支那の革命はまだ進行の途中にあつて、軍事行動や政治建設に忙しく、産業建設の邊はないが、その片鱗は既に現はれて居る。彼等が成否の鍵は一に産業建設に成功するか否かに懸つて居る。今日現はただで、妄りに將來を豫斷することは出来ないが、集め得たこれ等の片鱗を、私の實際視察した所を綜合して此後の歸趨を知るの資料に供したいと思ふ。

廣東でも武漢でも未だ産業の破壊期にあつて、何等の建設も行はれて居ない。然しその破壊の跡を見ても極めて微温的だし、國民黨の政策もこの方面では穩健であつて、その上に支那の産業が甚だ幼稚な状態にあるから、

第一章 概説

一

第一章 概説

二

大體の傾向はロシヤに比較しては始めから餘程右に行くと思ふ。殊にロシア革命の経験が支那共産黨員により多く取り入れられることを思へば、一層然るを信ずる。

今日産業の發達建設に影響を與へて居る二つの要因がある。其の一つは農勞階級援助の政策であつて、一つは軍閥との争闘繼續である。農勞階級の援助に力を盡して居るのは中國共産黨である。共産黨の政策は國民黨の政策がどの位な程度に採用されるかは、農勞援助の度に依つて窺へる。廣東でも武漢でも勞働者の地位はかなり向上され、ために産業に大打撃を與へて居るが、産業制度そのものには何等の變更が加へられないために、徒らに産業萎微の結果を招來して居る。農村方面では非常に慎重な態度を取つて、未だ何等具體的施設をやつて居ない。それはロシヤの経験に、支那の農業状態を顧慮した結果だと思ふ。第二の軍閥との争闘繼續は、ロシヤ革命の頭初に於ける列國の支持する反革命軍との戦争時期と同じように、産業建設はこれを顧みるの遑なく、其上莫大の軍資を得るため産業の破壊をも顧みられなくなる。かくて革命事業そのものも危機に瀕して居るのが國民革命の現状である。然しこの障碍は、第一のもの、ように根本的でなく、軍事時期の終結するまでの一時的のものである。

革命軍勢力の伸び行く所、勞働運動と内争と反帝國主義運動により、産業は外支人を問はず一通り破壊されるだらう。然し問題は破壊になくて其後の建設にある。が如何なるものが造られるかは、單に國民黨の政綱だけでなく、支那現在の産業状態、多數無職者の救済等支那特有の情況に左右さるゝ、こゝが少くあるまい。

第二章 政策の基調

孫文は其遺囑中に次のように述べて居る。

革命未だ成らず、我が同志須く余の著す所の建國方略、建國大綱、三民主義、第一次全國代表大會宣言により革命の達成に努力せよ、と。

右の中、建國大綱は政治建設に止まつて居るが、建國方略、三民主義、第一次全國代表大會宣言にある經濟產業に關する部分は、國民黨產業政策の基調をなすものとして、先づ一通りの検討を加へて置く必要がある。その外にも孫文歿後の第二次全國代表大會宣言も亦參考すべきものであらう。

建國方略の内でのこの問題に關係を有つて居るのは物質建設である。その序文の一節に於て孫文は次の如く云つて居る。

世界戰後各國が戰前の經濟狀態に歸らうとするには支那の富源を開發して其の困窮を補はねばならぬ。然らば支那富源の開發は今日では世界人類の一大問題であつて、單に支那の利害に關するだけでない。問題はたゞ開發の權を我が手に握るか他に取られるかで、支那存亡の鍵は實に茲にある。もし之を我が手に握らうとすれば、これに關する智識を備へねばならぬ。本書はその智識を與ふるものである。こゝに書いたのは實業計畫の大方針と國家經濟の大政策で、その細部は實施に當つて定めらるべきものである。と。

次に孫文の實業建設計畫の概要を述べる。

第二章 政策の基調

第二章 政策の基調

四

支那の生産は今日まだ手工を以て行はれ、産業革命の第一期にも達して居ない。然るに歐米は大戦後産業革命の第二期さといふべき状態に入つて居る。即ち産業の統一と國有とが行はれつゝある。故に支那はこの第一、第二の革命を同時に行はねばならぬ。即ち一方では手工を廢して機械を採用するに共に、他方では之を統一し且つ國有としなければならぬ。かくて機械を用ひて大規模の農業を営み豊富なる鑛山を採掘し、無數の工場を建て運輸を便にし、公共事業を發展せしめねばならぬ。又使用機械の市場も戦後貿易に於ては大に注意すべきもので、大なる機械製造場を設け、蒸汽軋壓器を製造して道路を構築し、貨物自動車をつ造つて各地生産貨物の輸送に使用し、各種利源を開發したならば、外支人均しく其利益を受くるであらう。歐米人にして深くこのことを思はず、その工業組織と熟練の技工とを以て支那の利源を開發せんとするならば、こゝに外國工業の競争を引き起すであらう。故に余は一策を樹て、支那に一新市場を開き、國產の消費は勿論、外貨のためにも販路を與へ、兩々相妨げないようにしたい。その策といふのは、

(一) 交通の開發

イ、鐵道十萬哩

ロ、碎石路一百萬哩

ハ、現在の運河の浚渫

1 杭州、天津間運河

2 西江、揚子江間運河

二、新に運河の開通

1 遼河、松花江間運河

2 其他の運河

ホ、治水

1 揚子江に築堤し、且水路を設け、漢口より海に至る間四季の別なく外洋通ひの汽船を通行せしむ。

2 黄河の築堤水路の修正を行ひ洪水の害を除く、

3 西江の治水、

4 導淮

5 其他河川の治水、

へ、電信線路、電話、無線電信を増設し、全國に通信網を完成す、

(二) 開港

1、支那の中部、北部、南部に紐育の如き各一大貿易港を設く、

ロ、沿岸に種々の商業港及漁業港を開く、

ハ、通航し得る河川の沿岸に商場及船着場を設く、

(三) 鐵道の中心及終點並に開港場には新式市街を設け、公共設備を施す。

(四) 水力の發展

第二章 政策の基調

第二章 政策の基調

六

(五) 溶鑄爐、製鋼所、セメント製造の大工場を設け、上記諸種の需要に供す。

(六) 鑛山の採掘

(七) 農業の開発

(八) 蒙古、新疆の灌漑

(九) 支那の中部及北部に於ける植林

(十) 東三省、蒙古、新疆、青海、西藏に移民

もし以上の計畫にして逐次實行されて行くなれば、支那は各國の剩餘生産物の消費場たるに止らず、更に經濟的大市場となり、諸工業國の資本の餘りあるものは、支那は能く盡く之を吸収し、支那だけでなく、全世界から競争商戦といふものを無くなすことが出来る。國際聯盟は將來の武力戦争を防止するために設けられたが、余は國際の支那發展共助により將來の貿易戦を免れ、戦争の最大原因を根本から除きたいと思ふ。

米國の商工業が發達して世界は大に其益を受けた。四億萬の人口を有する支那の商工業が一旦發達したならば經濟的見地からすれば、新しい一つの世界が開けた譯で、この開發の當つた國も、又普通以上の利益を受くることは疑ない。且つ此種の國際協助は人類博愛の情をして益々鞏固を加へしめ、國際聯盟も之に依て其基礎を固め得るに信する。

この計畫を順調に進めるため、私は之を三段に分ちたい。第一は支那に投資する各國政府をして、共同の行動と統一の政策を採らせるため、一の國際團を組織させ、組織ある管理人と熟練なる技術員とを用ひ、系統ある設計

ご無駄のない物の使ひ方をして浪費を免れ作業を便にする。第二は其方法が支那人民の信用を得、彼等をして熱心にこの舉を援助させるようにしなければならぬ。以上の二段が巧く行つた所で第三段に移る。即ち支那政府と正式に會議を開いてこの計畫の最後の契約を議定する。吾人は予ミロンドンのボーリン公司と結んだ廣州重慶間の鐵道契約はこの方法によつたもので、支那と外國との間に結ばれた契約中最も人民の歡迎を受けたものである。然し吾人が茲に注意しなければならないことは、かの盛宣懷の鐵道國有の轍を踏んではならぬ。當時外國銀行家は支那人民の意向を顧みず、たゞ支那政府とだけ協議したため、遂に人民の反對を受け失敗した。吾人は國際計畫に於ては民意の重視すべきことを知る。

支那實業の開發はこれを二つの方面に分つことが出来る。一は個人企業であり一は國家經營である。凡て事業の個人に委すべきもの、又は國家經營より個人の方が都合の好いものは之を個人に任せ、國家は之に獎勵を加へ法律を以て保護する。支那に於ける個人企業の發達を有利にせんせば、從來から行はれた自殺的稅制を廢止し紊亂した貨幣制度を改め、各種官吏の積弊を除き、特に交通の利便を計つてやらねばならぬ。又事業中獨占的性質を帶ぶるもの、又は個人に委するのは不利益なものは之を國營とする。此種國家經營の事業は、外資の吸收、外人の熟練且つ組織的才能を要し、大規模の建設計畫により始めて目的を達し得るものである。然して其財産は之を國有とし、全國人民の利益を基礎として之を經營する。事業の建設運用に關しては、その元利完済以前は、中華民國國家が雇傭した専門の熟練した外人に、經營監督の責任を負はせる。その條件としては、此等の外人は補助役たる支那人を訓練教育し、將來外人に代り得るようにする。元利完済の後には、支那政府は雇外人を留任さ

第二章 政策の基調

七